

## 第6学年 外国語科学習指導案

日 時 令和3年9月4日(土)  
子ども 6年

### I 単元名

Lesson 8 What sport do you like?  
みんなほどのスポーツが好き?  
(Junior Sunshine 6 開隆堂)

### <授業の見どころ>

子どもたちが、状況に応じて試行錯誤しながら、表現を選んだり使ったりする自由度の高い言語活動を行います。

### II 単元の指導構想

#### 1 単元について

- 子どもたちは、英語の学習に対して前向きに取り組んでおり、ALT や友達とのコミュニケーションを楽しみにしている。自分の考えや友達の好きな物などを伝え合うことができた時、相手とかかわってよかったと実感している様子が見られる。しかし、学級内とかかわる際、既に関係を構築している友達とばかりとかかわろうとしたり、自分から声をかけることに躊躇したりする子どもも見られる。

これまでの学習において、「話すこと[やり取り]」について、基本的な表現を用いて指示や依頼をしたり、それらに応じたりすることができるようになってきた。また、使う語句や表現が限定された状況であれば、自分の考えや気持ちを伝え合うこともできるようになってきた。さらに、6月に学年独自で行った「絆フェスタ」の取組では、互いが高まり、支え合うためにどうすればよいか考え、行動する姿が見られた。これらの学びの文脈を生かし、今後は、相手やその場の状況に応じて、質問したり、質問に答えたりして伝え合うことができる力を身に付けていく必要がある。

- 本単元は、スポーツという身近な話題を通して他者に配慮しながら自分の考えや気持ちなどを伝え合ったり、簡単な語句や基本的な表現を用いて発表したりすることを通して、友達についての理解を深めたり、スポーツが根付いた社会や世界の文化にふれたりする単元である。

本単元の言語活動は、友達の好きなスポーツや選手、してみたいスポーツを聞き、クラスで人気のあるスポーツをまとめることである。日常生活の中で大きな話題となっている東京オリンピック・パラリンピックの影響もあり、子どもたちの興味は多岐にわたると考えられる。そのような学びの文脈を生かし、互いの興味のあるスポーツを聞き合うことは、相手理解を深める上で必然性があり、付けたい力と照らし合わせて、適切な活動と言える。

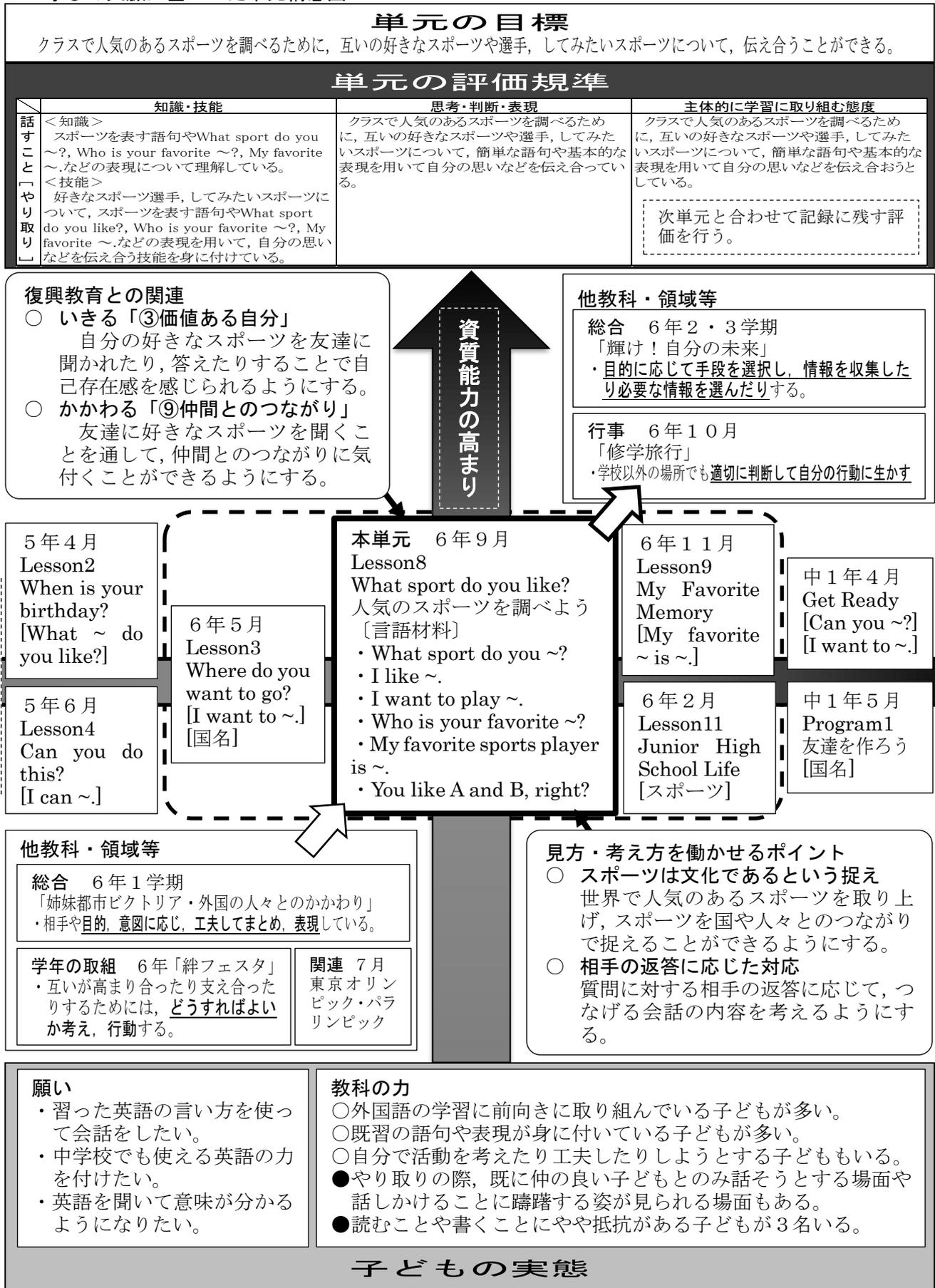
- 指導に当たっては、次の二点に留意する。

一点目は、**自由度の高い言語活動の設定【手立て1】**についてである。子どもたちは、一人一人、友達との関係性に差があり、知っていることや予想できることなども異なる。そのようなインフォメーションギャップを視覚化するワークシートを用意する。一人一人が質問したい相手や内容が異なる状況を作ることで、質問やその答えに対する反応に使う語句や表現を一定の範囲の中から選ぶことができるようにする。**全校研究とのかかわり「えらぶ」「つかう」**

二点目は、**学びの現在地の共有【手立て2】**についてである。単元の導入において、教師が言語活動モデルとして、複数の児童とのやり取りを見せ、相手の返答に応じて臨機応変に対応を変えていることに気付くことができるようにする。決められたやり取りではなく、状況に応じて使う表現を選ぶという単元で目指す姿を確認し、これまでのどのような学習を生かすことができそうか、子どもたちから引き出す時間を設ける。

また、単位時間の展開や終末において、単元の見どころに向けて、どのくらい到達しており、よりよいコミュニケーションのためにどのようなことを改善できそうか、随時振り返る機会を設定し、自覚した学びを共有する。そうすることで、子どもが、自分自身の学びの文脈をデザインすることができるようにする。**全校研究とのかかわり「つなぐ」**

## 2 学びの文脈に基づいた単元構想図



### 3 単元の指導及び評価の計画（全6時間）

時	○学習活動 働かせる見方・考え方	◆研究の手立て	評 価			
			知 技	思 判 表	態 度	評 価 規 準 〈 評 価 方 法 〉
1	○教師の話聞き、単元の目指す姿に向かう学習を出し合う ○クラスで人気のあるスポーツを予想する ○好きなスポーツの尋ね方や答え方に親しむ	<b>手立て2 学びの現在地</b> ◆目指す姿に迫る学びを引き出すためのモデル提示 →【つなぐ】				本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。
2	○好きなスポーツ選手の尋ね方や答え方に親しむ ○様々なスポーツ選手の言い方を理解する ○インタビューゲームをして、好きなスポーツ選手を尋ね合う <b>スポーツと国や人々とのつながり</b>	<b>手立て1</b> <b>自由度の高い言語活動</b> ◆インフォメーションギャップを視覚化するワークシートの工夫 ◆相手や状況に応じて語句や表現を選んだり使ったりできる場の設定 ◆失敗しても繰り返し試すことができる機会の保障 →【えらぶ・つかう】				本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。
3	○してみたいスポーツの尋ね方や答え方に親しむ ○してみたいスポーツを書き出す ○したみたいスポーツについてインタビューをし合う		や			スポーツについて尋ね方や答え方を理解している。 〈行動観察〉
4 本時	○好きなスポーツや選手、してみたいスポーツについてインタビューをし合う ○第1時の予想が合っていたか確認する <b>目的・状況に応じて考えを再構築</b>			や	や	好きなスポーツ等について質問したり答えたりすることができる。 〈行動観察〉
5 ・ 6	○好きなスポーツや選手、してみたいスポーツについて、対話形式で発表する ○単元の振り返りをする。	<b>手立て2 学びの現在地</b> ◆単元の導入で目指した姿にどれだけ近づけたかを振り返る。→【つなぐ】				本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。

### Ⅲ 本時の指導

#### 1 目標

- クラスで人気のあるスポーツを調べるために、互いの好きなスポーツや選手、してみたいスポーツについて、質問したり答えたりすることができる。

#### 2 評価規準

【思考・判断・表現】（話すこと [やり取り]）

- ・クラスで人気のあるスポーツを調べるために、互いの好きなスポーツや選手、してみたいスポーツについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて自分の思いなどを伝え合っている。

〈努力を要する状況の児童への手立て〉

既習の語句を板書や掲示に位置付け、言い方が分からない時に見たり、教師に聞いたりして確認することができるようにする。

3 展開 (4 / 6時)

段階	学習活動 ○発問	時間	◆研究の手立て 予想される子どもの反応	・留意点 【評価】
導入	1 あいさつとウォーミングアップ Small Talk: Do you like sports?	3		・英語を使いやすい明るい雰囲気をはげめる
	2 課題の設定 みんなは、どのスポーツに興味があるのだろうか。	2	<b>手立て1 学びの現在地</b> ◆前時の振り返りを使い、みんなの課題意識を醸成し、解決に有効な既習の表現を発問により引き出す。 →【つなぐ】	
展開	3 課題の解決 ・使用語句、表現の確認 ○どのような表現を使いたいですか。  ○よりよいコミュニケーションのために頑張りたいことは何ですか。 「アイコンタクト」「ジェスチャー」 「表情 (スマイル)」「クリアボイス」 「リアクション」「クエスチョン」  ・学級の友達に、好きなスポーツや選手、してみたいスポーツを聞く 〈質問する表現〉 “What sport do you like?” “Who is your favorite sports player?” “What sport do you want to play?” 〈答える表現〉 “I like ~.” “My favorite sports player is ~.” “I want to play ~.”  ・やり取りの様子を振り返り、さらに心掛けた点を意識して取り組む ○やり取りをしていて、もっとよくなりたいところはどんなところですか。 ○～さんのこういう反応の仕方がとてもよかったので、皆さんも是非取り入れてみましょう。 〈答えに対して反応する表現〉 “Oh, really?” “Me, too.” “Let’s play ~.” “That’s a good idea.” “Sorry. No, thank you.”	5	好きなスポーツなどを聞いたり答えたりする表現を使いたいな。	・子どもが話した表現を板書する ・非言語的要素も押さえる  ・教師も共に活動しながら、表現が難しく困っている子どもが聞けるようにする。  <b>思判表</b> 【話す[やり取り]】 〈行動観察〉  ・答えに対する反応の仕方の良い子どもを見つけて全体に広げる。  <b>主体的態度</b> 【話す[やり取り]】 〈行動観察〉
		1	<b>手立て2 自由度の高い言語活動</b> ◆一人一人、相手によって聞く内容が異なる状況を作るワークシートの活用 ◆相手に応じて、聞く内容(好きなスポーツ、選手、してみたいスポーツ)を選び、適した表現を用いるようにする。 →【えらぶ・つかう】	
		1 5	相手の答えの後に会話を続けたいな。	
終末	4 振り返り ・解決した課題について ・学習を通して ○工夫したことや今後にかきたいことを書きましょう。	1	<b>手立て1 学びの現在地</b> ◆本時の学びが単元のゴールに向けてどのようにつながるのかを全体で共有する。 →【つなぐ】	・振り返りの視点を確認する。
<b>【振り返りの表現例】</b> ① 決められた表現だけではなくて、自分で考えて “Can you play ~?” も使うことができた。 ② 普段の生活でも、相手の話に合わせて反応や質問を使ってみたい。				

